

## 会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-38	平成30年度第2回 墨田区図書館運営協議会		
開催日時	平成30年10月27日（土） 午前10時から正午まで			
開催場所	墨田区立ひきふね図書館5階会議室			
出席者数	<b>【委員】7名</b> 上田 修一（会長）、日向 良和（副会長）、清水 雅也、齊藤 宮子、佐藤 弘行、原 平充、關 真由美 <b>【事務局】6名</b> ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、ひきふね図書館主査、ひきふね図書館担当職員3名			
会議の公開 （傍聴）	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	2人
議事	1 「英語多読講座」について 2 利用者アンケートの設問等について ・図書館の利用に関するアンケート ・イベント等の参加者向けアンケート 3 その他			
配付資料	・次第 ・資料1 「英語多読のススメ」 ・資料1-追加資料 「墨田区立ひきふね図書館 多読への取り組み」 ・資料2 「墨田区立図書館についての利用者アンケート（案）」 ・資料3 「講座等参加アンケート（案）」			
会議概要	議事1 英語多読を行っていく上での、効果的な連携やイベント実施方法について（P1-2） 議事2 より良い運営に活かすためのアンケート設問内容の見直しについて（P3-4） 議事3 緑図書館の障害者サービス、こどもとしょじつへの大人向け本の配架など（P5-6）			
所管課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）			

## 議事第1

### 「英語多読講座」について

**上田会長** 第1番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

**阿部主事** 配付資料1及び追加資料について説明

**上田会長** 英語多読の対象者は、どのあたりの層なのか。

**阿部主事** 子どもから大人まで、英語を学ぼうとする人であれば、誰でも対象である。

**上田会長** まず子どもが第一の対象になるのではないか。例えば日本語多読の場合は、主として子どもが対象である。

**阿部主事** 簡単な英語から学ぶ内容なので、大人にも好評を得ているという印象がある。子どもにも参加してもらいたいが、実際には、大人の参加者が多い状況である。

**上田会長** 目的としては、子どものリーディング能力をつけるということがあるのではないかと思う。学校でも、英語多読への理解があって、うまく活用していけるといいと思うが、まだそこまでいっていないのだろうか。

**高村館長** 現状では、図書館事業として取り組んでいて、学校との連携は今後の取組である。

**清水委員** 英語多読について、YL（読みやすさレベル）0.4くらいまでは、小学校でも楽しんで活用できるのではないかと感じた。低学年・中学年の子どもたちは興味をもつと思う。高学年では、できれば自分なりに読んだものをプレゼンテーションする取組もいいのではないだろうか。

**佐藤委員** 当初、墨田区ひきふね図書館パートナーズ企画として提案したときも、学校教育との連携という点については、それほど考えていなかったと思う。

**上田会長** 子どもたちを集めて、図書館の中で講座を行うのは難しいのだろうか。

**阿部主事** 今年の夏に、子どもを主な対象とした多読講座を行った。親子含めて30名ほどの参加があり、小学校低学年から中学1年生までの子どもが参加してくれた。講師の先生がとても楽しい雰囲気を出してくれていて、例えば、一つのフレーズを、皆で何度も繰り返し声に出して馴染んでもらったりしていた。「英語は楽しいものだ」という気持ちを持たせ、そこから英語に触れ、学ぶ意欲を出していこうとすることが大事だと思う。

**上田会長** できればそのような講座を今後もやってほしい。多読の本には、CDがついているものもあり、リーディングだけでなくヒアリングにも有効である。多読においても、その点をもう少し強調してもいいのではないだろうか。

**阿部主事** その点を考慮して、図書館としてはなるべくCD付きの本を購入するようにしている。「読む」は本を読む、「聞く」はCDを聞く、「話す」は「英語たどくらぶ」という集まりで話す、「書く」は英語多読手帳に書いてもらう、というように促している。

**上田会長** 多読というのは、読むだけという印象があるので、今のようなことをもう少しアピールしてもいいと思う。

**佐藤委員** 読みやすさレベルは、どのような基準で決めているのか。

**阿部主事** いろいろな出版社が各自でレベルを決めて出しているが、それらを総合して、読みやすさの基準を定めている。

**佐藤委員** 具体的にはどれくらいのレベルを想定して区分しているのか。全くの初学者を対象にしているのだろうか。

**阿部主事** 全く英語に触れたことのない人を対象にしたものが、Y L 0.0 からとなる。Y L が高いものは、専門書などを読むレベルのものもあり、多読としてはおすすめていない。図書館の多読コーナーでは、Y L 2 くらいまでを中心に集めている。

**原委員** 多読は頻度が重要だと思う。今は月に1度、きちんと準備して開催しているので、労力がかかっていると思う。むしろ労力をあまりかけないで、頻繁に開催することが効果的だと思う。また、ひきふね図書館の多読コーナーは蔵書数が十分あるが、他館は少ないので配分を考える必要がある。ひきふね図書館の多読コーナーは4階にあり、保護者の方は気づくだろうが、できれば子どもの目に触れる場所にもあるといい。

**高村館長** 今は月に1度のイベントだが、内容を軽めのものにすれば、もう少し回数が増やせると思う。また多読コーナーの場所の配慮や、他館にも揃えるなど検討していきたい。

**關委員** 今の話に関し、私も多読で英語を習得したことに気づいた。12歳でオーストラリアに移住した際、国語の時間にE S L (English as a Second Language) という移民向けの特別プログラムがあった。先生に教わりながら、英語で絵本を読むところからはじまり、最終的には1年間かけて、先ほどのY L 3程度が読めるくらいまでになった。一人で読むことも大切だが、それだけでは習得するのは難しい。音読して発音を直されたり、質問に一所懸命に答えるうちに、読めるようになっていった。ここまで教材が揃っているのであれば、それを指導する人が定期的に携われたらいい。

**上田会長** O R T (オックスフォード・リーディング・ツリー) 以外にも、いろいろなセットがあるのだろうか。

**阿部主事** いろいろな出版社がシリーズを出している。O R T に関しては、200冊を超えるシリーズで、それを読み終えた人には、レベルアップ用として、また別のシリーズがある。

**上田会長** 個人が家庭でそれらを揃えるのは無理なので、図書館の役割として最適のようにも思える。他区の図書館でも、英語多読を行っているところはあるようだが、「英語たどくらぶ」という集会があることが、墨田区の特徴と考えていいのか。

**阿部主事** 墨田区で「英語たどくらぶ」を開始したとき、都内でこうした集会を催している図書館はないということだった。現在では墨田区以外でも、「英語たどくらぶ」のような集会が行われていると聞いている。

**齊藤委員** 以前、ネパールのN P O 法人と提携して、「ひきふね図書館おもてなし課」の子どもたちが、ネパールの小学生とスカイプをつないで英会話したことがあった。ひきふね図書館にはそうした実績があるので、今後の英語多読イベントのプログラ

ムに、それらを加えられるといいと思う。実際に話してみると、完璧な英語でなくても通じることがわかるだろう。

## 議事第2

### 利用者アンケートの設問等について

上田会長 第2番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

### 熊倉次長 配付資料2及び配付資料3について説明

上田会長 このことに関して何か質問は。

原委員 最近、NPS（ネット・プロモーター・スコア）という指標がある。これは、「このイベントや施設を他の人に紹介したいですか」という質問に対する得点と、来店頻度とにおいて、相関値が高いというものだ。参考になれば設けてほしい。また、今回のアンケートは項目が多いが、これらを聞いて、本当に改善に役立てられるのだろうか。例えば、問7（15）「子ども向けのイベントに参加されたことはありますか」で、「5回以上ある」と答えた人が、仮に（16）で「とても不満」と答えた場合、あまり意味をなさない。普通は、不満なら次は来ない。不満の場合は、回数は関係なく、問10にまとめて理由を書いてもらえばいい。イベントに参加する人は大抵、「満足」または「とても満足」と書くので、むしろ来なかった人がなぜ来なかったのかが知りたい。このアンケートをどのように活用するのか、というところを意識してもらえればと思う。

佐藤委員 問5「あなたの年齢をお教えてください」は、「19歳以下」という括りが大きい。もう少し細分化してもいいのでは。

齊藤委員 この年代ごとの区切りに何か意味はあるのだろうか。むしろ年齢も書いてもらった方がいいのではないか。

原委員 小学生・中学生・高校生別の興味の違いを知る目的なら、分けた方がいい。

齊藤委員 図書館として何が知りたいかをまず考えて、それに合う年代の区切りにすべきである。アンケートの目的によって、その都度変えていってもいい。

上田会長 問4「あなたの性別をお教えてください」で、3番目の選択肢がある。これは区全体の方針なのだろうか。

熊倉次長 明確なルールではないが、性別を聞く際はその必要性を明示することや、LGBTを考慮した3番目の選択肢を設けることについては、各主管における検討事項となってきている。

日向副会長 性別をカミングアウトしたくない人もいるので、3番目は「その他」という記載にした方がいいかもしれない。

高村館長 今回の記載は、人権関連等の担当課が出している参考例をもとに作成した。

日向副会長 男性・女性でおすすめる本が違うなどの理由がない限り、図書館は性別に対してニュートラルにしておいた方がいいので、問4自体、どうかなと思う。

原委員 性別を聞いて、例えば女性が多かった場合、それをどう活かすのかということ、難しい部分もある。それよりも、問7（2）の所蔵資料の質問に関して、もう少し

詳しく聞いてもいいのではないか。例えば図書なら、NDC（日本十進分類法）10分類まで聞いたり、あるいは図書・雑誌・視聴覚資料といった資料別に、充実してほしいものを聞いてもいいと思う。問4の性別や、問7の（3）や（4）のような項目よりも、やはり図書館としては、蔵書の部分を詳しく聞いた方がいいと思う。

**上田会長** 接遇の項目があるのは、指定管理者が管理する図書館もあるので、聞いているものと思う。

**齊藤委員** 回答者によって、どの程度熱心に回答するかは異なる。例えば、全体の利用者のうちの1割が回答したとして、それを10倍すれば全体の利用者の意見になるとは限らない。一所懸命書く人もいれば、全然書かない人もいる。

**熊倉次長** 性別の項目に関しては、改めて委員の皆様の意見をお聞きしたい。

**關委員** 仕事でよくアンケートを作るが、性別の項目は入れてしまっている。また、学生・会社員・退職者というような、利用者の属性の項目があってもいいと思う。そうすれば、どの年代で、どういう属性の人がいて、というクラスタリングができる。

**上田会長** だいたいの意見としては、あまり性別は重要ではない、ということかと思う。

**日向副会長** 問7の所蔵資料の状況だが、（1）と（2）は1つにまとめられるのではないか。例えば、「特にどの書架を充実した方がいいと思いますか」と聞いて、図書館にある書架ジャンルを選択肢に出して、2つ、3つ挙げてもらうのはどうだろう。今の作り方だと、（1）で「不満」か「とても不満」を選んだ人だけが、（2）を選択する形式だが、満足している人でも、もう少し充実させてほしい、とっていることもある。（1）の設問をするよりは、（2）において、充実させてほしいところを複数選択する形式がいいと思う。問7（6）は、館内展示を見たことがない人もいると思うので、気に入った展示を具体的に書いてもらったり、こんな展示をやってほしい等を、自由記述で書いてもらった方がいいのではないか。また、問7の（7）と（8）も、例えば、「とても不満」の代わりに「利用したことがない」の選択肢を（8）に加えれば、1つにまとめられる。「とても不満」の人は、そもそも利用していないことが多いだろう。問7の（10）と（11）も同様だ。問7の（8）や（11）は、充実度を聞くだけでなく、自由記述をしてもらえるといい。問7の（13）～（16）の講座の質問についても、問10の自由記述欄に書いてもらえればいいのだが、例えば今後行ってほしいイベントを自由記述で書いてもらおうといい。問8の（1）と（2）は、「改善してほしいところがありますか」という聞き方で、設備の選択肢を出すといいと思う。問9は、原委員が提案したように、「この図書館を紹介したいと思いますか」や「紹介ポイントはありますか」というように聞いてみてもいいと思う。全体として、自由記述が増えてしまうとは思わが。

**關委員** 自由記述が増えるほど集計は大変になるが、実はそこが最も重要な部分だと思う。

**上田会長** 今回の意見を参考に、アンケートを完成させてもらえればと思う。

### 議事第3

#### その他

上田会長 その他として、何かあれば。

齊藤委員 2年前に、緑図書館の録音室を改修したが、その後の利用状況はどのようなだろうか。あまり利用されていないような気がする。

高村館長 2、3名のボランティアが利用している。

齊藤委員 かつて緑図書館はボランティアが多く、録音室は予約でいっぱいだった。そういう状況に戻らないのは、何が原因なのだろうか。指定管理者になったので、いい方向へ行くかなと期待していたのだが。

高村館長 録音室の利用に際し、緑図書館からひきふね図書館に移ったボランティアが多い。

齊藤委員 つまり、ひきふね図書館の方が使いやすいのだろう。逆に言うと、緑図書館は使いにくいとされているということだ。緑図書館も使いやすいということをしてPRしないといけない。また、緑図書館の録音室の鍵を使う際は、カウンターで受け渡すのだが、以前はカウンターの机の中に鍵が置いてあり、すぐに渡してもらえた。今は、その都度、職員が3階の事務室から持ってくるのだろうか。少し待たされることになっている。

高村館長 その件については、確認して改善したい。

齊藤委員 緑図書館においては、点字でクリスマスカードを作ろうというような、障害者関係のワークショップが全然行われていない。近隣の小学校の総合学習で点字をやっているのだが、保護者から、どうして緑図書館では点字のワークショップをやらないのか、という声もあったようだ。立花図書館では、立花図書館長が私の講習会も受けてくれていて、今年は随分ワークショップをやらせてもらった。八広図書館でも、手話などいろいろ行っている。緑図書館でも、障害者への理解という意味でも、もう少し障害者関係のワークショップをやってほしい。

高村館長 それらについては、今後充実させていきたい。

熊倉次長 今後、来年度の指定管理3館の事業計画を作ってもらえることになるので、こうした要望を伝え、計画に盛り込んでいければと考えている。

原委員 ボランティアとの連絡や連携は、どのように行っているのか。

齊藤委員 指定管理館の職員と、我々ボランティアが直接連絡を行うかということ、そういうことはない。すべてひきふね図書館の障害者サービス担当を通してしている。

原委員 指定管理3館は、たくさんのイベントを実施している印象があり、良い運営をしていると感じている。

關委員 ひきふね図書館のこどもとしょしつに、親向けの本を置いてほしいという話を周囲で聞いた。例えば、佐々木正美氏の『子どもへのまなざし』などは、子育てに悩んだ親が読むのにとってもいい本だが、静かな一般のフロアに配架してあるので、子ども連れだとなかなか行けない。

高村館長 スペース面などの課題もあるが、子どもを連れて一般のフロアには行きづ

らいと思うので、対応していきたい。

**上田会長** 皆様の活発な議論に感謝する。他になければ以上で、平成30年度第2回墨田区図書館運営協議会を閉会する。